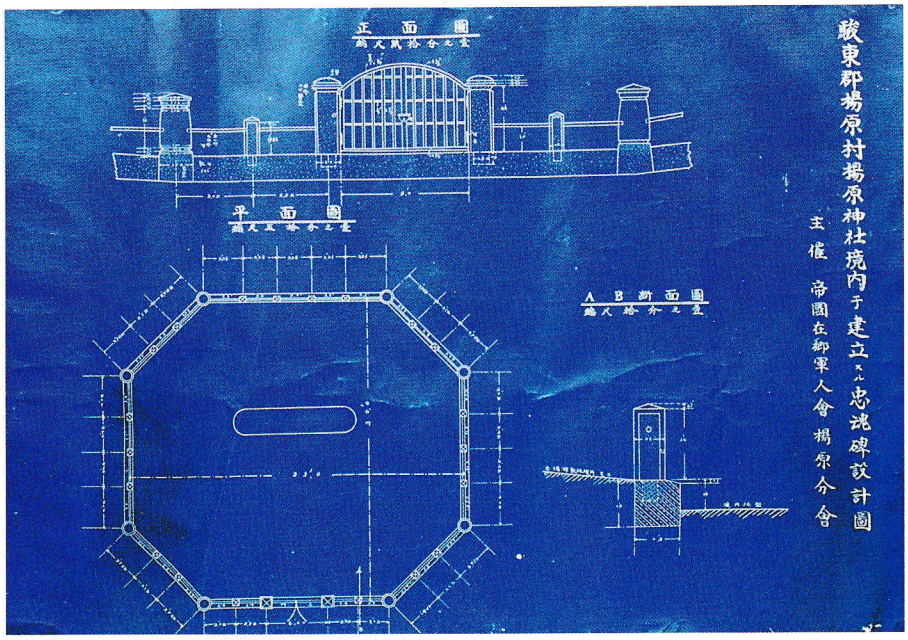
沼津市

明治史料館通信

2004.2.25（季刊 年4回発行）Vol.19 No.4 通巻第76号



駿東郡楊原村楊原神社境内ニ建立スル忠魂碑設計圖
（下香貫森田家文書・当館所蔵）

忠魂碑除幕式（大正9年？）
（下香貫森田家文書・当館所蔵）

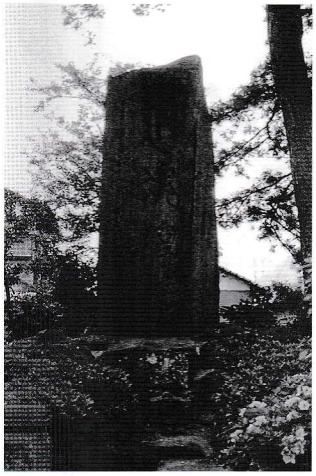
ぬまづ近代史点描 ⑤⑥

楊原村の忠魂碑

下香貫宮原の楊原神社の境内、本殿に向って右側に旧楊原村（大正一二年沼津町と合併。現在の香貫地区）の忠魂碑が建っている。現存する碑は、戦後の昭和三十年一月に上香貫下香貫我入道三區自治会奉賛会によって再建されたもので、元は在郷軍人会楊原村分会によって大正九年八月に同地に建立されたものである。題号「忠魂碑」は元帥伯爵東郷平八郎の揮毫になる。戦時中は、この碑の前で慰霊祭が執り行われていた。

先に述べたように、現存する碑は再建されたものであるが、大正期に建立された碑が、いつ頃、どのような事情でなくなったかは、残念ながら現在のところ明らかになっていない。恐らくは、全国的にそうであったように、終戦後の占領期にGHQの指導によって撤去されたものと推測される。このことは、今後の調査で明らかにしていきたい。撤去されたのは碑のみで、碑周囲にめぐらされた柵は、門扉は失われているが設計図（一頁写真）のとおりに現存している。

碑裏面には、三島の土屋雪嶺の書で「招忠魂刻芳名」として、日清戦争から大東亜戦争までの戦没者584名の氏名が、各戦争ごとに、上香貫、下香貫、我入道の旧村毎に刻されている。内訳は、日清戦争では上香貫1名、我入道1名、日露戦争では上香貫7名、下香貫8名、我入道2名、日支事変では上香貫16名、下香貫18名、我入道1名、大東亜戦争では上香貫242名、下香貫141名、我入道147名となっている。碑の前には「二瀬川婦人会」と刻された花立一対がある。



現在の忠魂碑

シリーズ 沼津兵学校とその人材 ⑥⑨

測量技師になった沼津兵学校出身者

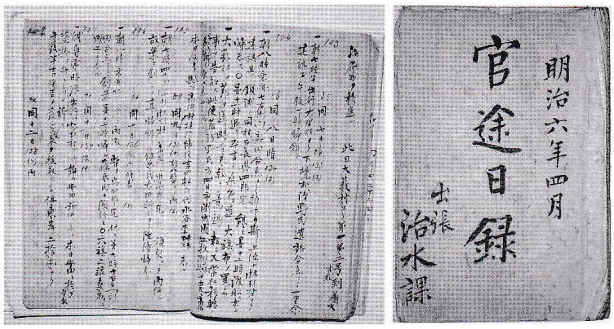
沼津兵学校資業生の学科には、数学の中に「実地測量」があった。後年に作成された出身者の履歴書（第二期資業生石井至凝）には、沼津で「陸地測量術」を学んだとはっきり記されており、実際に授業が行われたことがわかる。一方、測量を教えた側には、伴鉄太郎（一等教授）・浅井道博（二等教授）・黒田久孝（三等教授）・鈴木重固（三等教授並）・山田昌邦（教授方手伝）・浅野永孝（同前）らがおり、「地方測量局」という部門での実務も担当したらしい。

沼津で身につけられた測量技術は、彼らのその後の人生において大いに役立った。陸地測量部製図課長・地形課長を歴任した早川省義（陸軍少将）を筆頭に、資業生出身者には、陸軍で測量・地図作製に従事した武官・文官が少なくなかった。

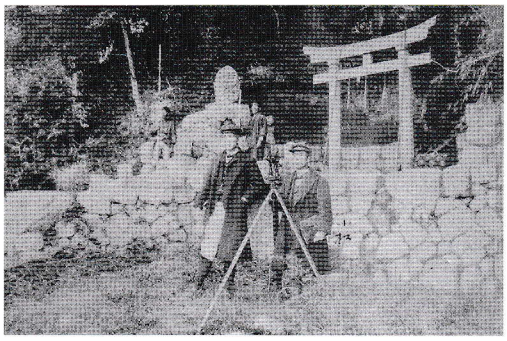
そして、陸軍に入った者とは別のコースを歩んだ、もう一つの測量技術者グループがいた。大蔵省―内務省―農商務省に入った人々である。なお、開拓使に入り、札幌民事局測量課などに属して北海道で測量に従事した関大之（兵学校附属小学校算術教授方出身）・野口保三（第九期資業生）・野沢房迪（第四期資業生）・奈佐栄（第五期資業生）・水野秋尾（第七期資業生）らの一団を加えると、沼津兵学校出身者は、三つの測量技術者集団を輩出したといえる。

ここでは、内務省に奉職した群像に注目してみたい。明治七年（一八七四）の『掌中官員録』には、内務省土木寮に矢橋裕（十一級出仕・沼津兵学校第一期資業生出身）、同省地理寮に榊綽（九等出仕・兵学校三等教授並出身）、同省同局に浅野永孝（三等大技手）、新井秀徳（十一等出仕・第五期資業生）、大川通久（三等中技手・第二期資業生）、鈴木重固（一等少技手）、吉田泰正（同前・第三期資業生）、浜

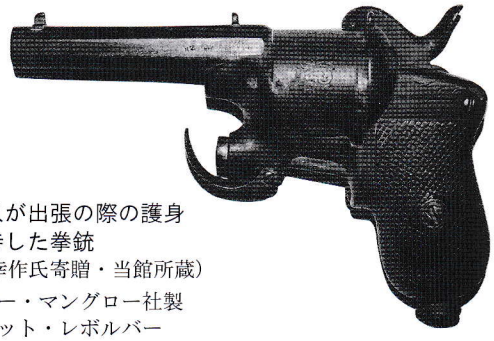
明治６年頃の大川通久と御雇い測量教師？
（大川幸作氏所蔵）



「官途日録」（大川幸作氏寄贈・当館所蔵）



測量に従事する大川通久（大川幸作氏所蔵）



大川通久が出張の際の護身用に所持した拳銃
（大川幸作氏寄贈・当館所蔵）
ベルギー・マングロー社製
カメロット・レボルバー

田晴高（一等中技生・第六期資業生）、赤井親善（同前・同前）、野口昇（一等少技生・兵学校附属小学校算術教授方出身）らの名前が見える。翌八年の『掌中官員録』になると、内務省地理寮には、塚本明毅（五等出仕・兵学校一等教授出身）、小林秀一（十三等出仕・第四期資業生）、塩野谷景光（二等中技生・第七期資業生）の名前が加わる。その後、彼らは他の部局に異動したり、退職するなど、減少していくが、明治十九年（一八八六）の『改正官員録』時点でも、西尾政典（十四等出仕・第一期資業生）、野口昇（八等属）の二人が内務省土木局に所属していた。

大川通久は、大蔵省土木寮十二等出仕に在職中、愛知・岐阜・三重三県に出張し測量に携わった際の業務日誌「官途日録」（明治六年四月十五日～十月十三日）を残している。その中の記述を幾つか抜粋し、紹介してみよう。

4月15日「本日午後第四時愛知岐阜三重三県測量御用として出張可致旨示令各通小野頭より受取候也」

5月9日「本日午前十時頃浅野矢橋三重県庁へ出頭」「長持四棹両掛六荷四ケ市陸運会社より綿屋へ為持込候事」

5月12日「午前八時半より出張矢橋篠原大川人足三人召連陸路蒔田半吉外人足壱人召連舟行白鶏新田川岸へ検点旗を建午後一時福本新田へ上陸夫より距離測量」

5月19日「本日朝雨ニ付出張不致終日製図」

6月7日「本日船壱艘人足四人長島輪中測量夕五時半帰館之事」

6月16日「元木屋より竹十本取寄候事」

6月25日「午前桑名市中測量」

6月27日「元木屋へ三尺杭小杭五十本充申付る大工へ絵図板壱枚注文いタス」

7月14日「第六時出行佐屋川通り古川村辺測量」「三重県官諸橋外壱人来ル」

8月4日「朝第四時乗舟桑名へ着岸夫より直ニ四日市へ着ス速波戸場巡廻浜田屋へ止宿ス」

8月16日「測深并杭打込等ニ付絵図方之外不残出張之事」

9月7日「朝七時半出行大里村ヨ

リ下境村浅野氏遺旗合点マテ一里余建旗シ午後一時帰館ス」

9月8日「朝八時乗舟七右衛門新田合点マテ棹下シ斯ニ上陸シ帆引村マテ建旗且ツ鎖測シ同村戸長与四郎宅ニ憩ヒ第十二時渡船ニ乗シ帰来ス○第十一時過キ平吉ヲ桑名江遣ク大旗ノ布ヲ買ワシム」

9月15日「午前四日市港全図成ル」

9月16日「蒔田氏今朝四日市県庁へ成図持参」「浅野氏方二枚当方全図共三葉東京廻福岡先生へ向書翰添ル」

9月20日「東京ヨリ矢橋氏へ至急便来レリ是ハ同人淀川測量出張ノ示命降り代リトシテ伊藤氏ヲ遣達セル云々ヲ福岡先生ヨリ申来リシ也」

9月12日「朝第十時乗舟高柳ヲ発シ午後三時大垣ニ達ス矢橋氏ノ浪華ニ行クヲ送レルナリ」

以上、大雑把な引用ではあるが、測量技師としての日常業務の一端が明らかになったものと思う。なお、大川と出張に同行した中には、沼津兵学校の同窓矢橋裕がいたほか、「浅野先生」「浅野君」として登場する人物も、沼津での恩師である浅野永孝（源四郎）の可能性が高い。また、引用文中に「福岡先生」として登場したのは、幕府軍艦役から静岡藩海軍学校頭並・権少参事・水利路程掛となり、内務省地理寮に当時出仕した福岡久（久右衛門）のことであると思われる。その職場は旧幕臣出身技術者の溜まり場になっていたといえよう。

この日記の翌年、明治七年（一八七四）には組織改編があり、大川らは内務省地理寮に横滑りする。彼らの地道な作業は、明治十年代にかけて内務省地理局が発行した精密な大縮尺地図に結実していったものと思われる。

〈参考〉拙稿「沼津兵学校の人材と地図・地理書」（『月刊古地図研究』第25巻第10号、一九九四年）、拙稿「史料紹介　沼津兵学校人名簿」（『沼津市博物館紀要』21、一九九七年）、塚原晃「近代美術と地図」（『神戸市立博物館研究紀要』第17号、二〇〇一年）（樋口雄彦）

お知らせ欄

◎企画展「沼津文学祭開催記念　沼津兵学校の文人たち」の終了

11月15日(土)から2月1日(日)まで開催していた企画展「沼津文学祭開催記念　沼津兵学校の文人たち」が無事終了しました。

また、関連事業として歴史講演会「沼津兵学校の文人たち」を1月17日(土)に元国士舘大学教授四方一弥氏を講師に開催し、84名の受講者がありました。

▶歴史講演会の様子

◎沼津市歴史民俗資料館企画展「植田内膳と香貫用水」開催中

江戸時代初期、上香貫の植田内膳は、慢性的な水不足に悩まされていた香貫地区に、狩野川の大滝に石堰を築くことで引水に成功しました。

この企画展では、功労者である内膳の名をとって呼ばれた「内膳掘」と、それ以来香貫地区の農業を支え続けてきた「香貫用水」の移り変わりを振り返ります。

期　間　平成16年2月14日(土)～6月20日(日)

会　場　沼津市歴史民俗資料館（沼津御用邸記念公園内）

時　間　9時～16時

休館日　月曜日・祝日の翌日・月の末日

問合せ　電話　055－932－6266

沼津市明治史料館通信　第76号
編集・発行　沼津市明治史料館
〒410-0051 沼津市西熊堂三七二－一
電話　〇五五-九二三-三三三五
FAX　〇五五-九二五-三〇一八
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm